

令和5年度新規発行

高等学校国語教科書

# 学習課題ノート見本

〔特徴〕

- ・ 自学自習を支援する、各教科書完全準拠のノートです。
- ・ 教材内容・構成のまともから各設問に入っていくことで、より深い理解に導きます。
- ・ 各教材の目標に即した課題を設定することで、学習到達度の確認や、観点別評価の資料としてもご利用いただけます。

『精選 論理国語』(第一部第四單元「記号を使う動物」)

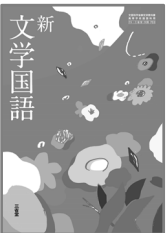
『新 論理国語』(第一部第二單元「文章をリフォームする」・第四單元「ホンモノのおカネの作り方」)

『精選 文学国語』(第一部第二單元「山月記」)

『新 文学国語』(第一部第三單元「山月記」)

『精選 古典探究 古文編』(第一部第二單元「徒然草」)

『精選 古典探究 漢文編』(第一部第三單元「史記」)



## 三省堂

※この資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則って作成しています。

※紙面・内容は2022年5月現在(編集中)のものであり、今後変更となる場合があります。

記号を使う動物……池上嘉彦

▼記号としての言語について理解する

検印

漢字・語句を確認しよう

■ 次の——線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- ① 古い慣習を打破 [ ] する。
- ② 惰性 [ ] でテレビを見る。
- ③ 既成 [ ] の考えになじむ。
- ④ 比喩 [ ] を使った表現。
- ⑤ 崇高 [ ] な精神の表れ。
- ⑥ 生物の特徴 [ ] を調べる。
- ⑦ 大河を遡 [ ] る。
- ⑧ 索性 [ ] を確かめる。
- ⑨ 文脈を把握 [ ] する。
- ⑩ 年輩 [ ] の紳士と話す。

■ 次の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 心がユ [ ] さぶられる。
- ② シンセン [ ] な野菜。
- ③ フゴウ [ ] が合う。
- ④ 位置をコテイ [ ] する。
- ⑤ 視聴率をイジ [ ] する。
- ⑥ 新生児にメイメイ [ ] する。
- ⑦ 太陽系のワクセイ [ ] 。
- ⑧ 製造カテイ [ ] を調べる。
- ⑨ タイケイ [ ] 的な研究。
- ⑩ 新記録にイド [ ] む。

■ 次の語句の意味を答えなさい。

- ① 知見 [ ]
  - ② タブー [ ]
  - ③ シンボル [ ]
  - ④ イデオロギー [ ]
- 次の語句を使って短文を作りなさい。
- ① くをあやつる [ ]
  - ② くをはばかり [ ]

全体の構成を理解しよう

次の空欄に本文中の言葉を入れ、全体の構成を理解しよう。

<p>「意味づけ」の営み (初め〜92・3)</p>	<p>詩作が新しい「記号」を生み出す営みであるように、新しい言葉遣いは、我々の世界に新たに加えられる「<sup>①</sup>」の営みである。人間は既存の記号をあやつるだけでなく、新しい記号を創り出す。その基本にあるのは「<sup>②</sup>」という行為であり、人間はこのような創造の営みを文化のあらゆる面で行っている。</p>
<p>「命名」する行為 (92・5〜94・4)</p>	<p>意味づけの営みは「<sup>③</sup>」の使用に支えられている。「命名」は他と区別し、自分との関連を「<sup>④</sup>」する行為であり、人間は正体不明のものも名づけることによって自分の世界に取りこんでいく。「<sup>⑤</sup>」のものを意味づける記号のこのようなはたらきは、人間の文化的な営みに広く関わっている。</p>
<p>言語の習得をめぐって (94・6〜終わり)</p>	<p>記号による営みにはもう一つ重要な面がある。言葉の習得は、一つの意味づけの「<sup>⑥</sup>」を身につけることであり、それが確立すると、人を束縛する「<sup>⑦</sup>」となる。しかし、人間は既存の秩序を組み換えて新しい価値の世界を開こうとする。人間は意味づける存在であり文化を創造する。そこに人間の「<sup>⑧</sup>」を「<sup>⑧</sup>」をあやつる営みが深く関わっている。</p>

文章の理解を深めよう

- 1 「この情性に揺さぶりをかける」(90・5)とは、どのようなことですか。その説明として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。  
 ア 日常生活の中で慣れ親しんだ言葉は使わないようにすること。  
 イ 日常のきまりきった言葉の使い方を意図的に変えてみることに。  
 ウ 日常のありふれた言葉のよさを見直して自覚的に用いること。  
 エ 日常の緊張感を失った言葉遣いを反省して正しく改めること。

- 2 「新しい『記号』をせつせと創り出している」(91・10)とありますが、その例としてどのようなことが挙げられていますか。次の空欄に合う形で、本文の同じ段落から二つ、それぞれ抜き出さない。

が  を意味する。

が  を意味する。

が  を意味する。

- 3 「このような『言語創造』にも似た行為」(94・15)とは、どのような行為ですか。本文の同じ段落から三十六字で抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

）

4 「慣習として固定化したレベルで言葉を捉えている」(92・7)とはどういうことですか。それを説明した次の文の空欄にあてはまる言葉を、①は本文中から漢字二字で抜き出し、②はあとのア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ある言葉が、ある  ① を表すことを、すでに決まっている、

② なことと思いついでいる、ということ。

ア 意外 イ 当然

ウ 単純 エ 不思議

①

②

5 「なぜ名前をつけるか」(92・10)とありますが、この問いに筆者はどのように答えていますか。犬の事例で考え、その理由を過不足なく述べている部分を本文中の同じ段落から一文で抜き出し、初めの五字を書きなさい。

6 そのようなものに『ブーボー』と名前をつけたとしよう」(93・4)について、

① 「そのようなもの」とは、どのようなものを指していますか。次のようにまとめた場合、空欄にあてはまる言葉を、本文中の同じ段落からそれぞれ十字以内で抜き出しなさい。

⑦ を支配している  ① 。

①

⑦

② ①のものに「ブーボー」という名前をつけることによって、どのようなことが可能になったと述べていますか。適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分たちを支配するものの正体がわかったようである。

イ 本当の名を隠すことで対象と穏やかな関係を保てる。

ウ 自分たちの運命がより良いものになるように祈れる。

エ 宗教的なシンボルを得ることで集団の統制を図れる。

7 『ブーボー』という記号」(93・12)の例を通して、筆者が言いたいのはどのようなことですか。それをまとめた次の文の空欄にあてはまる言葉を、本文中から①・②は二字、③は三字でそれぞれ抜き出しなさい。

①  をつけることは、 ② のものを意味づけて自分たちの世界

に取り込むことであり、このような記号のはたらきは、宗教や芸術、自然科学の分野に至るまで、人間の  ③ な営みに広く関わっているということ。

①

②

③

8 「もう一つの重要な面」(94・7)について、端的に述べている形式段落を探し、初めの五字を抜き出しなさい。



# 文章をリフォームする

【教科書 P.77 ~ P.79】

●的確に伝える。

検印

## 学習活動に取り組もう

1 わかりやすく説得的な文章を書く際に気をつけるべきポイントを  
をおさえよう。

- 文体を統一する
- 一文を短くする
- 係り受けを明確にする
- 大原則と小原則を意識する
- 段落の構成を意識する

はじめの三つのポイントは、実際に文章を書く時や、書き終わって見直す時に気をつけること  
みたいだね。

三太さん

あとの二つは、どちらかという書く前の準備の時や、書いている途中でうまく書き進められない時に意識する必要があるんだよ。

省子さん

2 次の文章を修正し、より伝わるものにリフォームしよう

1 左の文章を読み、わかりにくいところや、もう少し具体的に説明できそうなところを見つけよう。

言葉によって世界はつくり出される。事実、私たちは言葉を知ること、目の前の世界を意味付け、認識することになる。

例えば、「虹の色はいくつ」という話があります。日本では、普通に七色と答える人が多いはずだ。でも、「黄色」や「赤色」と認識することはできないはずであるし、そこに色の認識があるからこそ、「虹は七色である」と言えるのであって、もし複雑な色の違いを認識しないまま、そしてその違いを説明する言葉をもっていなかったら、どうなるだろう。

言葉をもつということは、私たちの認識を豊かにし、世界を広げることである。言葉を知れば、私たちは世界のさまざまなものにアクセスすることができるのである。

2 1で見つけた、見直したほうがよいと思う点を書き出そう。

例)

場所 … 「 5 」行め  
 理由 … 「**文体の統一**」／一文の長さ／係り受け／その他」  
 直す方法 … 「でも」を「だが」「しかし」などにする。

場所 … 「 」行め  
 理由 … 「**文体の統一**」／一文の長さ／係り受け／その他」  
 直す方法 …

場所 … 「 」行め  
 理由 … 「**文体の統一**」／一文の長さ／係り受け／その他」  
 直す方法 …

場所 … 「 」行め  
 理由 … 「**文体の統一**」／一文の長さ／係り受け／その他」  
 直す方法 …

3 2で書き出した点について感想や意見、もう少し修正すべき箇所などを交流し、新たに気づいたことがあればメモしよう。

「 」さんの考え  
 場所 … 「 」行め  
 理由 … 「**文体の統一**」／一文の長さ／係り受け／その他」  
 直す方法 …

4行めの「いくつ」は「いくつの色に分けられるか」と書いたほうが伝わりやすい、という考えもあるよね。

三太さん

**学習の目標を振り返ろう**

学習を振り返って、「的確に伝える」ために必要なことについて気づいたことや考えたことを書こう。

# ホンモノのおカネの作り方

岩井克人「教科書  
P.128  
P.129」

●書き手の意図を捉える。

検印

## 全体の構成を理解しよう

ホンモノのおカネ (初め〜133・6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホンモノのおカネを作ることの極意</li> <li>1. ニセガネを作らないようにすること。</li> <li>2. ホンモノに似せようとしないこと。</li> </ul>
ニセガネ作り (134・1〜135・10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニセモノを作るとは？</li> <li>   ホンモノの金銀でないものを、できる限りホンモノに似せようとする作業。</li> </ul>
金貨銀貨の代わり (135・11〜137・8)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸時代の両替屋 ∴ 財産の保管と預り手形を発行</li> <li>   金貨銀貨とは全く似ていない紙きれが、あたかも支払い手段であるかのように使われる。</li> </ul>
逆説的作用 (137・9〜139・7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホンモノの「代わり」(    預り手形や太古における金貨銀貨) がホンモノになつてしまふという逆説作用</li> <li>↓ 太古から現在まで「ホンモノのおカネ」というものを作り続けてきた。</li> </ul>
信用と安全性 (139・8〜終わり)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな資力と厳重な金蔵がないと、ホンモノのおカネを作り出す「逆説」は見向きもしてくれない。</li> </ul>

## 漢字・語句を確認しよう

1 次の——線部の漢字は読みを、カタカナは漢字を書きなさい。

- ① 至極 [ ] [ ] まじめな人物である。
- ② 起源は古代までサカノボ [ ] [ ] する。
- ③ コーヒー豆をイ [ ] [ ] する。
- ④ あれこれとセンサク [ ] [ ] する。
- ⑤ 旅券を偽造 [ ] [ ] する。
- ⑥ 古い街が変貌 [ ] [ ] する。
- ⑦ 土のカタマリ [ ] [ ] を運ぶ。
- ⑧ 脳外科のケンイ [ ] [ ] を頼る。
- ⑨ 獄門 [ ] [ ] の刑に処する。
- ⑩ 交通事故の犠牲 [ ] [ ] になる。





3 「すなわち、ホンモノの『代わり』が……作り続けてきたのである。」(137・6)について、次の問いに答えなさい。

①ここでの「ホンモノのおカネ」とは、どのようなものか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 絶対的・普遍的な実体をもつもので、それ自体がかけがえのないもの。

イ 絶対的・普遍的な実体をもつものではなく、その時々「代わり」に対する「ホンモノ」ではないもの。

ウ 絶対的・普遍的な実体をもつものではなく、「ホンモノ」に見た目を似せて作られたもの。

エ 絶対的・普遍的な実体をもつものだが、あくまで「代わり」に対する「ホンモノ」ではないもの。



② 現在の「ホンモノのおカネ」とは、具体的には何か。本文中から抜き出しなさい。



③ 現在では「代わり」とは、具体的には何か。本文中から抜き出しなさい。



4 「いわば彼らはホンモノの形而上学けいじじょうがくの哀れな犠牲者なのであった。」(138・15)について、次の問いに答えなさい。

① 「彼ら」とは、どのような人たちのことか。本文中から八字で抜き出しなさい。


② 「決してホンモノになることはできない」(138・12)のはなぜか。その理由として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

**難**

ア ホンモノのおカネをホンモノたらしめている金銀に似せたものを作るだけで、おカネは決してホンモノの金銀にはならないから。

イ ホンモノの形而上学にとらわれて、外見をホンモノの金銀に似せるように作るだけでは、ホンモノのおカネの代わりにならないから。

ウ ニセガネ作りは、大きな資力や嚴重な金蔵があっても、ひとたびそれが発覚すれば無価値になり、支払い手段として流通しないから。

エ ホンモノのおカネをホンモノたらしめている金銀に似せたものを作るだけでは、ホンモノの形而上学を理解したことにならないから。



③ 筆者が、ニセガネ作りを「ホンモノの形而上学の哀れな犠牲者」(138・15)と述べている理由として適切でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ホンモノのおカネについての本質を理解できていないのに、ホンモノと同じ価値を得ようとしていたから。

イ 技術を駆使して時間と労力をかけても、ニセモノはニセモノでしかなかったから。

ウ どの時代にもニセガネが流通していたにもかかわらず、ニセガネ作りは単なる犯罪にすぎなかったから。

エ ホンモノになれないばかりか、ニセガネが発覚すれば、重罪に処せられてしまったから。

④ 「ホンモノのおカネ」を作るには何が必要か。適切なものを次の中から全て選び、記号で答えなさい。

ア 信用

イ 技術力

ウ 安全性

エ 発想力

オ 経営力

「ア イ ウ エ オ」

3 本文の内容を捉えよう。

1 本文の内容に合うものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。 **難**

ア 刻印で内容量を表示した金塊はホンモノのおカネではなく、ホンモノの金銀ではないものでも実際の支払い手段として流通するものがホンモノのおカネである。

イ 本来の支払い手段である金貨銀貨の代わりであったものが、金貨銀貨以上の価値をもつようになるという逆説の作用によって、ホンモノのおカネは成立するのである。

ウ ホンモノのおカネとは実際の支払い手段として流通するようになるもので、ニセガネとはホンモノの金銀でないものをホンモノに似せようと細工したものである。

エ 金貨銀貨の材質や外見に似せたものを作るのではなく、本来のホンモノのおカネに代わるものを実際の支払い手段として流通させることがニセガネを作る極意である。

2 現在の最も先端的な「ホンモノのおカネ」の例として適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 電子マネー

イ 硬貨や紙幣

ウ 預金通帳

エ インターネット

「ア イ ウ エ」

山月記 …… 中島敦

▼会話と地の文の関係に着目して、人物像を把握する

検印

漢字・語句を確認しよう

■ 次の——線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- ① 意気が揚 [ ] がる。
- ② 整った容貌 [ ] 。
- ③ 職を失って貧窮 [ ] する。
- ④ 寒さに堪 [ ] える。
- ⑤ 既 [ ] に調査済みだ。
- ⑥ 感情を抑 [ ] える。
- ⑦ 闇 [ ] の中を奔走する。
- ⑧ 自分の限界を悟 [ ] する。
- ⑨ 礎 [ ] を築く。
- ⑩ 巧拙 [ ] は問わない。

■ 次の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 遭難者をソウサク [ ] する。
- ② 反旗をヒルガエ [ ] す。
- ③ 意見がショウトツ [ ] する。
- ④ 忍び泣きの声がモ [ ] れる。
- ⑤ シュウアク [ ] な容姿。
- ⑥ カタワ [ ] らに寄り添う。
- ⑦ 分けへダ [ ] てなく接する。
- ⑧ ザンギヤク [ ] な行為。
- ⑨ シュウチャク [ ] 心が強い。
- ⑩ 音楽家のソシツ [ ] がある。

■ 次の語句の意味を答えなさい。

① 非凡

② 自嘲

③ 切磋琢磨

④ 弄する

① 歯牙にもかけない

■ 次の語句を使って短文を作りなさい。

② 茫然

[ ]

[ ]

[ ]

[ ]

[ ]

[ ]

[ ]

全体の構成を理解しよう

次の空欄に本文中の言葉を入れ、全体の構成を理解しよう。

<p>行方不明になった 李徴<small>りちゆう</small>と袁修<small>えんしゆ</small>の再会 (初め～25・7)</p>	<p>李徴は博学才類<small>さいるい</small>の官吏だったが、詩人を志して官を退く。しかし文名は揚がらず、生活苦のため再び官吏に戻る。鬱々<small>うつづ</small>とした日々を過ごすうち、突然「<sup>①</sup>」し、行方不明になる。翌年、旧友だった袁修は偶然にも李徴と再会した。</p>
<p>李徴の独白 (25・8～31・15)</p>	<p>李徴は袁修に、己が虎の身となったいきさつを語り、やがては人間だった時の「<sup>②</sup>」を失うことへの哀しみ<small>かな</small>を訴える。</p> <p>李徴は、自作の詩の伝録を袁修に依頼する。袁修はその詩に「<sup>③</sup>」しながらも、第一流の作品としては何か欠けるところがあることを感じた。李徴は、自分が虎に変身した理由を、「<sup>④</sup>」と「尊大な羞恥心」という己の「<sup>⑤</sup>」に求める。</p>
<p>李徴と袁修の別れ (31・16～終わり)</p>	<p>李徴は、妻子の今後を袁修に頼み、己の乏しい詩業のほうを優先するような男だから虎になるのだと「<sup>⑥</sup>」する。最後に李徴は、袁修一行に虎となった己の姿を現し、叢へと躍り入った。</p>

文章の理解を深めよう

- 1 「叢の中からは、しばらく返事がなかった。」(24・8)について、このときの李徴の心情として適切でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 食らいたいという虎の本能に苦しめられている。  
 イ 旧友を襲おうとした自分の所業に恐怖を感じている。  
 ウ 今の自分の醜い姿をさらけ出すことに抵抗を感じている。  
 エ かつての親友と話がしたいという思いがこみ上げている。

2 「この超自然の怪異」(25・2)の内容を具体的に説明した次の文の空欄

にあてはまる言葉を、本文中から抜き出しなさい。

一年前に行方知れずとなった旧友の李徴が  ① として自分に襲いかかろうとし、 ② を操って語りかけてきたこと。

①

②











# 山月記

なかじまあつし  
中島敦 【教科書 P.68  
〜 P.81】

●〈執着〉する心を捉える。

検印

## 全体の構成を理解しよう

李徴 <small>りちやう</small> の発狂と失踪 <small>しつそう</small> (初め〜69・15)	官吏 — 博学才穎 <small>さいえい</small> 、若くして官吏となるが、まもなく退官。 詩家 — 文名はあがらず、生活は貧窮、詩業に半ば絶望。 地方官吏 — 自尊心を傷つけられ発狂、失踪する。
李徴と袁慘 <small>えんさん</small> の再会 (70・1〜71・13)	袁慘に遭遇↓草むらに姿を隠しながらも、再会を喜ぶ虎の李徴。
李徴の告白(一) (71・14〜74・4)	虎になった理由もわからず生きる⇒生き物のさだめと語る。 しだいに人間だった記憶もなくなるであろう悲しみを語る。
李徴の告白(二) (71・5〜76・6)	袁慘への依頼⇒自作の詩の伝録を袁慘に頼む。 今の思いを、即席の詩に述べる。
李徴の告白(三) (76・7〜78・13)	虎になった理由⇒「臆病な自尊心+尊大な自尊心」と語る。
袁慘への依頼 (78・14〜80・4)	袁慘への依頼⇒故郷に残した妻子の今後を袁慘に頼む。 虎になった理由⇒「妻子より、詩業を気にかけること」と自嘲。
袁慘との別れ (80・5〜終わり)	袁慘一行に姿を見せた虎は、再びその姿を見なかった。

## 漢字・語句を確認しよう

1 次の——線部の漢字は読みを、カタカナは漢字を書きなさい。

- ①セツ [ ] を屈する。
- ②シガ [ ] にもかけない。
- ⑩目の前に躍 [ ] り出る。
- ③名をナ [ ] す。
- ④格調がコウガ [ ] な作品。
- ⑤ヒボン [ ] な才能を感じさせる。
- ⑥シュウチシン [ ] をもつ。
- ⑦互いに切磋琢磨 [ ] する。
- ⑧俗物 [ ] と呼ばれる。
- ⑨小細工を弄 [ ] する。

## 文章の理解を深めよう

超現実的な事象を通して描かれていることを考えよう。

**1** 虎になる前の李徴はどのような人物として描かれているか、捉えよう。

1 主人公・李徴の状況の変化を、時系列にそって次のようにまとめた。空欄にあてはまる語句をあとから選び、書きなさい。

官吏登用試験Ⅱ①

「に合格。

← 江南尉こうなんいとなるが、いくばくもなく②

」。

← ③  
する。

「に帰り、④

「に専念

← 生活が苦しくなり、⑤

「の職に就く。

← 公用の旅先で⑥

「し、⑦

「に  
変身。

発狂 故郷 退官 地方官吏 虎 科挙 詩作

2 虎になる前の李徴は、どのような人物だったか。適切なものから三つ選び、記号で答えなさい。

- ア 知識豊富で、抜きだした才能をもっていた。
- イ 協調性があり、他の官吏たちと共に行動した。
- ウ 自分の意志を固く守って、人と妥協しなかった。
- エ その才能ゆえに、人からの信頼が非常に厚かった。
- オ 自分の能力や才能に、強い自信をもっていた。

3 「いくばくもなく官を退いた」(68・3)とあるが、李徴が役人をやめたのはなぜか。その理由がわかる一文を本文中から探し、初めの五字を抜き出さない。


4 「再び東へ赴き、一地方官吏の職を奉ずることになった。」(69・1)とあるが、その理由を次のようにまとめた。空欄にあてはまる語句を本文中から抜き出さない。

①  を養うために、仕事が必要だったから

・自分の死の才能に、半ば②  したから。

2 「袁<sup>えん</sup> 儻<sup>さん</sup>」はどのような人物として描かれているか、捉えよう。

1 「袁<sup>えん</sup> 儻<sup>さん</sup>」という人物について、次のようにまとめた。空欄にあてはまる語句を本文中から抜き出さない。

・ 李<sup>り</sup> 徴<sup>ちゆう</sup>と①  に進士に合格、現在は、監<sup>かん</sup> 察<sup>さつ</sup> 御<sup>ご</sup> 史<sup>し</sup>である。

・ ②  の少なかった李徴にとって、最も親しい友だった。

・ ③  な性格で、李徴と衝突しなかった。

2 袁<sup>えん</sup> 儻<sup>さん</sup>は、李<sup>り</sup> 徴<sup>ちゆう</sup>にとってどのような存在であるか。適切なものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 何事においても自分より上位の道歩んだ、うとましい存在。

イ 自分も得られたはずの、官吏としての栄達を実現した存在。

ウ 険しい性格の自分と対立せず、穏やかに受け止めてくれる存在。

エ 自分を恐れてどんな命令にも従ってくれる、手下のような存在。

オ 若い頃からのライバルとして、わだかまりの消えない存在。

3 李徴が、自分が虎になった理由をどう考えているか捉えよう。

1 「深く懼<sup>おそ</sup>れた。」(72・9)とあるが、何を恐れたのか。空欄にあてはまる語句を、本文中から十四字で抜き出さない。

人生には

ということ。

2 「これは恐ろしいことだ。」(73・7)とあるが、何が恐ろしいのか。空欄にあてはまる語句を本文中から抜き出さない。

①  としての時間が長く、②  の心に返る時間が短くなり、いずれ消えてしまうだろうということ。

3 「そのほうが、おれはしあわせになれるだろう。」(73・15)とある理由として適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 虎になりできれば、虎としての自分の行動を、人間の心で恐れたり悩んだりしなくてすむようになるから。

イ 人間でいるよりも虎になったほうが、余計なしがらみもなく、自由に詩作を続けていけるから。

ウ 人間だったころよりも、虎になった今のほうが仲間や友人に恵まれているから。

エ 人間でいるよりも虎になったほうが、その世界で高い地位を得ることができるだろうから。

4 李徴は、今でも記憶している自作の詩を「伝録していただき  
いのだ。」(74・10)と頼んだ理由を述べている一文を本文中か  
ら探し、初めの五字を抜き出さない。


5 李徴は、虎になった理由を「思い当たることが全然ないでもな  
い。」(76・11)と述べているが、それは何か。これよりあとの  
本文中から六字の語句を二つ抜き出さない。


6 ①「己の珠たまにあらざることを恐れるがゆえに、あえて刻苦し  
て磨こうともせず」(77・5)、②「己の珠なるべきを半ば信ず  
るがゆえに、碌々ろくろくとして瓦に伍することもできなかった」(77・  
6)とは、どういうことか。適切なものを次の中から一つずつ  
選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の才能の限界を知ることを恐れて、師についたり、詩友  
と交わったりして、自分を磨こうとしなかった。
- イ 自分の才能に自信がもてないため、人前に出ることはやめて、  
ひそかに自分を磨きあげていた。
- ウ 自分の才能に一切の疑いをもたず、どんな人に対しても見下  
したような態度をとっていた。

エ 自分の才能に望みを捨てきれず、そのような強い自負心から、  
人を見下すようなふるまいをした。

①
□
②
□

7 「飢え凍えようとする妻子のことよりも、己の乏しい詩業のほ  
うを気にかけているような男」(79・12)とは、どのような男  
か。適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 詩など書いている、現実離れした男。
- イ まともに働かない、怠け心の強い男。
- ウ 決断を先延ばしする、優柔不断な男。
- エ 家族への愛という人間性に欠けた男。

□
---

8 最後に李徴が、それまで身を隠していた草むらを出て、自らの  
虎となった姿を袁慆の目にさらしたのはなぜか。適切なものを次  
の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の話が本当だったことを袁慆に確認させたかったため。
- イ 袁慆が再び自分に会おうなどと思わないようにするため。
- ウ 袁慆に恐怖心を与えて自分との約束を守らせるため。
- エ 自分が虎になったことを誇りに思っていることを示すため。
- オ 人間世界への未練を断って虎として生きる覚悟を決めたため。

□
□

徒然草……兼好法師

▼随筆に表現された筆者の考え方を読み取る

検印

【あだし野の露消ゆる時なく】

語句・文法を理解しよう

■ 次の——線部の語句の本文中での意味を答えなさい。

- ① 住み果つるならひならば、(22・2)
- ② いかにもものあはれもなからん。(22・3)
- ③ 定めなきこそ、いみじけれ。(22・4)
- ④ こよなうのどけしや。(22・8)
- ⑤ 飽かず、惜しと思はば、(22・9)
- ⑥ めやすかるべけれ。(23・3)
- ⑦ かたちを恥づる心もなく、(23・4)

■ 次の——線部の助詞の意味・用法として適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

- ① 住み果つるならひならば、(22・2)
- ② 千年を過ぐすとも、(23・1)
- ③ 命長ければ辱多し。(23・2)

ア 逆接の仮定条件    イ 順接の確定条件    ウ 順接の仮定条件

文章の内容を読み取ろう

■ 「いかにもものあはれもなからん。」(22・3)とあるが、「ものあはれ」がある状態とはどのようなことを指すか。適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア あだし野の露が消える時がなく、鳥部山の煙がいつも立ちのぼっているように、この世に最後まで住み続けられる状態。

イ あだし野の露が消える時がなく、鳥部山の煙がいつも立ち消えていくように、この世に最後まで住み続けられる状態。

ウ あだし野の露が常に消えていき、鳥部山の煙がいつも立ち消えていくように、この世に最後まで住み続けられない状態。

エ あだし野の露が常に消えていき、鳥部山の煙がいつも立ちのぼっていくように、この世に最後まで住み続けられる状態。

■ 「かげろふの夕べを待ち、夏の蟬の春秋を知らぬ」(22・6)のような表現法を何というか、漢字で答えなさい。

■ 「長くとも四十に足らぬほどにて死なんこそ、めやすかるべけれ。」(23・2)と考える理由として適さないものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 四十歳以上まで活躍すると、後の世代の人々が活躍できないから。
- イ 容姿の衰えを気にしないで人の中に出て行くようになるから。
- ウ 子孫を愛し、繁栄するさまを先々までも見たいと執着するから。
- エ 現世の名利を欲しがることが強くなり、情趣を解さなくなるから。

■ この段の主題を表す一文として適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 世は定めなきこそ、いみじけれ。(22・4)
- イ 命あるものを見るに、人ばかり久しきはなし。(22・5)
- ウ 住み果てぬ世に、醜き姿を待ちえて何かはせん。(23・1)
- エ 命長ければ辱多し。(23・2)



教科書 P.36~49

# 史記

……司馬遷

▼作品の背景を理解し、登場人物の立場や役割を読み取る

検印

【鴻門之会】  
こうもんのくわい

語句・句形を理解しよう

■ 次の語句の本文中での意味を答えなさい。

- ① 旦日たんじつ (37・14)
- ② 郤ぎき (38・2)
- ③ 東嚮とうきやうさう (38・5)
- ④ 目メ (38・7)
- ⑤ 属ロク (38・10)
- ⑥ 細説さいせつ (41・7)
- ⑦ 間行かんぎやう (42・10)
- ⑧ 豎子じゆし (43・7)

■ 次の各文を句形に注意して書き下し文にし、口語訳しなさい。

① 令シム將軍マシテ 与ヲ臣有ケル郤ガ。(38・2)

書き下し文

口語訳

② 且マタ為シ所虜ト。(38・10)

書き下し文

口語訳

③ 能復飲乎。(40・11)

書き下し文

口語訳

④ 臣死且不避。卮酒安足辞。(41・1)

書き下し文

口語訳

⑤ 為之奈何。(42・2)

書き下し文

口語訳

⑥ 沛公安在。(43・5)

書き下し文

口語訳

文章の内容を読み取ろう

■ ①「入関」(38・1)の「関」、②「見將軍於此」(38・1)の「此」は、それぞれどこを指しているか、答えなさい。

① 関

② 此



二 「項王即日因留沛公与飲。」(38・5)は、どのようなことを表しているか。適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 項王と沛公が和解したこと。
- イ 項王と沛公が会談したこと。
- ウ 項王と沛公が旧知の仲であること。
- エ 項王と沛公が大酒飲みであること。

三 范増が項王に腰の「玉玦」(38・7)を挙げて見せたのは、どのようなことを意味しているか、説明しなさい。

四 「不応。」(38・8)について、項王がこのような態度をとったのはなぜか。その理由を説明しなさい。

五 「為人不忍。」(38・9)とはどういうことか、説明しなさい。

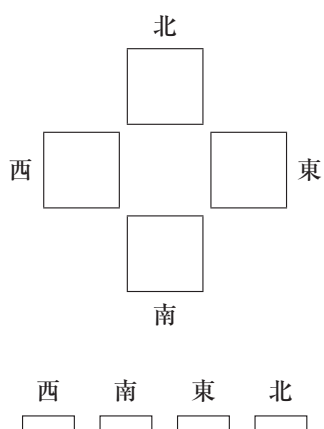
六 「按劍而跽。」(40・7)について、次の問いに答えなさい。

① 口語訳しなさい。

② 項王をこのような態勢に追いこんだのは何か。適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 樊噲の乱暴な言葉づかい。
- イ 樊噲のすさまじい怒気。
- ウ 樊噲の不遜な態度。
- エ 樊噲の横柄な態度。

七 次の図は鴻門之会の宴席の座席を表したものである。それぞれ誰がどこに座っているか、全員の名前を本文中(38・5～41・10)より抜き出しなさい。



八 「虎狼之心」(41・1)について、その内容を説明している部分を本文中より抜き出しなさい。(訓点は不要。)

九 「聴細説、欲誅有功之人。」(41・7)について、次の問いに答えなさい。

① 口語訳しなさい。

② 「有功之人」とは誰を指すか。適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 項王    イ 樊噲  
ウ 范増    エ 沛公

⑩ 「如<sup>い</sup>今<sup>ま</sup>人<sup>ハ</sup>方<sup>ま</sup>為<sup>ニ</sup>刀<sup>チ</sup>俎<sup>ヲ</sup>、我<sup>ハ</sup>為<sup>ニ</sup>魚<sup>ノ</sup>肉<sup>ニ</sup>。何<sup>ソ</sup>辞<sup>ス</sup>為<sup>サ</sup>。」(42・3)とあるが、「刀俎」「魚肉」とはそれぞれどのようなことをたとえているか、説明しなさい。

⑫ 「度<sup>は</sup>我<sup>リ</sup>至<sup>ル</sup>軍<sup>ニ</sup>中<sup>ニ</sup>、公<sup>チ</sup>乃<sup>チ</sup>入<sup>ル</sup>。」(42・11)について、次の問いに答えなさい。

① 口語訳しなさい。

② 「公」とは誰を指すか、答えなさい。

⑬ 「聞<sup>キ</sup>大王<sup>ノ</sup>有<sup>リ</sup>意<sup>ト</sup>督<sup>ス</sup>過<sup>ス</sup>之<sup>ヲ</sup>、脱<sup>シ</sup>身<sup>ヲ</sup>独<sup>リ</sup>去<sup>ル</sup>。」(43・5)について、次の問いに答えなさい。

① 口語訳しなさい。

② 「大王」「之」が指している人物をそれぞれ答えなさい。

大王 [ ] 之 [ ]

⑭ 范増が「唉、豎子不足与謀。」(43・7)と嘆いたのはなぜか。理由として適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 項王は、沛公をそのまま帰せば、曹無傷が殺されてしまうこともわからない暗愚な君主だから。

イ 沛公はおだてて利用すべき人物であるのに、逆に項王がおだてられ、利用されてしまっているから。

ウ 項王が沛公を殺害する機会を自ら逃したことで、天下は沛公のものになると確信したから。

エ 樊噲の剛胆さや張良の贈り物に心を許してしまう、項王の精神的な幼さに嫌気がさしたから。

難

⑮ 范増は、どんな気持ちで会見に臨んでいたか。適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 沛公の配下にある有能な武將を、自軍に引き入れられると期待していた。しかし、うまくいかなかったため、不安を覚えた。

イ 自分たちの権力を沛公側に見せつけることができる好機とみていた。しかし、項王にはその気がないことがわかり、落胆した。

ウ 項王と沛公が和解する絶好の機会だと考えていた。しかし、沛公が酒に酔って退出してしまい、和解できずに残念に思った。

エ 項王が天下を取るため、沛公を殺害する好機とみていた。しかし、討ち漏らしたことで、天下は沛公の手中に収まると悟った。

【四面楚歌】

語句・句形を理解しよう

■ 次の語句の本文中での意味を答えなさい。

- ① 壁<sup>ス</sup> (46・1)
- ② 飲<sup>ス</sup> (46・4)
- ③ 和<sup>ス</sup> (46・10)
- ④ 左右 (46・10)

■ 次の各文を句形に注意して書き下し文にし、口語訳しなさい。

① 可<sup>ベキ</sup>奈<sup>イカニ</sup>何<sup>カ</sup> (46・8)

書き下し文

口語訳

② 莫<sup>ナシ</sup>能<sup>ヨク</sup>仰<sup>キカ</sup>視<sup>ル</sup> (46・11)

書き下し文

口語訳

文章の内容を読み取ろう

■ 「漢<sup>オウ</sup>皆<sup>ニ</sup>已<sup>テ</sup>得<sup>ル</sup>楚<sup>ヲ</sup>乎<sup>カ</sup>。是<sup>コレ</sup>何<sup>ニ</sup>楚<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>多<sup>キ</sup>也<sup>カ</sup>。」(46・3) という言葉にこめられた項王の思いとして適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 故国の楚の人たちを救わなければならないと決意する思い。
- イ 故国の楚が漢の手に落ちてしまったのかという絶望の思い。
- ウ 故国の楚の人たちにまで背かれたのかと茫然とする思い。
- エ 自分を取り囲んで楚歌を歌う故国の人たちに激怒する思い。

■ 「飲<sup>ス</sup>帳<sup>ニ</sup>中<sup>ニ</sup>。」(46・4)の趣旨として適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア これからの戦いに向けて、将兵たちの士気を鼓舞するため。
- イ 敵に数重にも包囲され、食糧も尽きてきた不安を紛らわすため。
- ウ 寵<sup>チヨウ</sup>愛<sup>アイ</sup>した虞美人や生死をともししてきた将兵たちと決別するため。
- エ 包囲されている現状を打開する戦略を、将兵たちと練るため。

難

■ 「歌<sup>フ</sup>数<sup>コト</sup>関<sup>ケ</sup>、美<sup>メ</sup>人<sup>ニ</sup>和<sup>ス</sup>之<sup>ニ</sup>。」(46・10)とあるが、このときの項王と虞美人の心情として適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。


- ア 項王は練り返し歌うことで悲痛な感慨を自らに言い聞かせ、虞美人は悲運を理解できずただ合わせて歌うことしかできなかった。
- イ 項王は練り返し歌うことで鬱積した心情を吐露し、虞美人は項王の嘆きを理解し合わせて歌うことで慰めようとした。
- ウ 項王は練り返し歌うことで虞美人に悲運を理解させようとし、虞美人は不承ながらもあきらめ悲運の到来を納得した。
- エ 項王は練り返し歌うことで悲痛な感慨を自らと虞美人とに言い聞かせ、虞美人は我が身にふりかかる悲運の到来を理解し納得した。

✓ 振り返ろう

□ 作品の背景を理解し、登場人物の立場や役割を読み取る事ができた。

---

**SSD 三省堂**

公式 Twitter  @sanseido\_kokugo

「高等学校教科書のご案内」サイト  
<https://tb.sanseido-publ.co.jp/hspr/>

